

「砂上の楼閣」にしないために

朝七時過ぎに、一年のM君が登校してきました。

「おはよう。どうしたの？今日は早いね。」

「おはようございます。昨日数学のワークを忘れてしまったの。」
いつもなら七時四十分過ぎに登校する彼が早めに登校したのは、宿題になっていたワークの宿題を始業前にやるためでした。見開き二ページ分の問題を解答することが、宿題となっていたようです。

ワークを学校に忘れてしまったことは彼のミスですが、それに気付き、何とかするため、翌日早めに登校してワークを取り組む時間を作り出したのはすばらしい判断だと思いました。これも立派な主体性だと言えます。

「早く起きるのは嫌だから、学校に行ってからだれかに写させてもらえばいいや」とか、「あとから出せばいいや」と考えがちなところですが、M君はそれをしませんでした。自分のミスを取り繕ったり開き直ったりしても自分にプラスになることは何もありません。そう考えると、M君にとって、いつもより早く登校したことはつらいことだったでしょうが、正しい判断だったと私は思います。

M君と言葉を交わした私は、あることがふと心配になりました。彼は単なる不注意で忘れたのかもしれないので、彼がそうだとしたことではありません。北中の生徒全体に、そういう心配があるという事です。

それは、今実際に取り組んでいるSTPが、一人一人の学力向上に結び付くやり方になっているかどうかということなのです。

STPは翌日の授業予定をノートに記入する時間ではありません。一日の授業を振り返って、宿題はもちろん、理解不十分なところや、再度挑戦すべき問題などをはつきりさせて、それを含めた家庭学習の計画を立てる時間です。それができれば、その日にどんな学習用具を持ち帰ればよいかはつきりします。カバンの重さが日によって違ってくるのはそのためです。

したがって、ほんの数分のSTPでは、本来の目的がおろそかになっていくか、予定書きの時間になっているかのどちらかです。そうなれば、家庭学習は行き当たりばつりのものになりますし、学力向上は「砂上の楼閣」になってしまいます。

「一日何時間勉強すべきか」ということは一昔前の話です。今は「一日にどれくらい効率よく勉強するか」ということが大切です。時間をかければかけるだけ力がつくという考えは、昔の根性スポーツ大流行りの時と同じです。現在は、オンとオフのメリハリをつけてモチベーションを高め、オンの時にどれくらい効果的な練習ができるかが必要です。

あなたの家庭学習にはオンとオフがありますか。オンばかりでもだめですからね。えっ、オフばかりだった？それは恥ずかしいことだから、大きな声で言わない方がいいよ！（十二月二十二日記）